



# 双塔

カトリック新潟教会

2017年4月  
No. 347

## 祈るべき時

主任司祭 ラウル・バラデス

四旬節の歩みの中で、善行、断食とともに祈るように招かれています。祈るべき時について3世紀半ば（今から1750年前）の決まりごとを参考にし、各自は生活の中での祈りに使う時間をもう一度考えてみたらどうでしょうか。

すべての信者は、男子も女子も、朝、眠りから覚めたら、仕事にとりかかる前にまず手を洗って神に祈る。それから仕事にとりかかる。〔省略〕教会で祈る者はその日の悪を避けることができるのである。

家にいる時には、第三時に祈り、神を賛美しなさい。この時刻に他の場所にいる場合は、心の中で神に祈りなさい。この時刻に、キリストが木にかけられたことを人々は見たからである。〔省略〕

同じく第六時にも祈りなさい。なぜならキリストが十字架の木にかけられた時、昼の光がとぎれて、真っ暗闇となったからである。〔省略〕

正しい人にならって、第九時にも大なる祈りと賛美をささげる。〔省略〕キリストはこの時刻、わき腹を刺し貫かれて水と血を流し、残光を輝かせながら、夕べにまで導かれたのである。キリストは眠りはじめられた時、次の日を開始させて、復活の姿を示してくださった。

床に就いて寝る前にも祈りなさい。また真夜中ころ、起きて手を洗い、祈りなさい。妻がともにいるなら、二人一緒に祈りなさい。妻が未だ信者でないなら、一人で他の部屋に行って祈り、寝床に戻りなさい。祈るのに遠慮することはない。結婚の絆で結ばれている者は汚れた者ではないのである。〔省略〕

鶏が鳴くころにも起きて、同じようにしなさい。この時、イスラエルの子孫はキリストを否んだからである。しかし、わたしたちは信仰によってキリストを知り、死者の復活に向かう永遠の光を希望し、この日に目を向けるのである。

あなたがた信者は皆、このように行い、これらのことを記念し、互いに教え合い、求道者によい模範を示すなら、絶えずキリストを思い起こして、試みにあうことも滅びることもないであろう。〔1〕

まだ迫害の時代であったのに、家族や仕事があっても当時の信者は祈りのつとめを通して、毎日、その日一日と人間活動の全体を聖化することを目指していました。当時の信者も今の私たちも、目的が一緒であれば、そして同じような生活であれば、祈りも同じように必要になるはずです。

〔1〕 使徒に由来する伝承を集める「聖ヒッポリュトスの使徒伝承」より

〔\*〕 時課について 第三時＝朝9時、第六時＝正午、第九時＝午後3時のこと。

## そよかせ便り

### ■ 灰の水曜日 ミサと灰の式 ---- 3月1日(水) 10:00 ----

「灰の水曜日」はあっても、「灰の日曜日」はありませんからね」と、ユーモアたっぷりのラウール神父様。「皆さん、できるだけ灰の水曜日に教会に来て、この日に灰を受けるようにしてください」。

直前の日曜日のこの呼びかけが奏功したのか、ミサには新津や白根などからの出席者も含め40名ほどが集まった。

ぽかぽか陽気に誘われて、ミサ後は聖堂前のあちらこちらで談笑する姿が見受けられた。

#### ラウール神父様の説教から

- \* 四旬節は、御父の「恵みとあわれみ」に出会うための期間であって、そのための手段として「祈り・施し・断食」を大切にしましょう。
- \* 四旬節は悲しみの季節ではありません。
- \* 四旬節はまた、洗礼志願者の準備の最終段階。私たちも、この期間を共に過ごすことによって、自分の洗礼について思い起こし、洗礼の約束を更新することができますように。

### ■ 新潟地区合同洗礼志願式 ---- 3月5日(日) 9:30 ----

スタンドグラスから日の光が差し込み、新潟、青山、花園教会からの11名の洗礼志願者を明るく照らす中、四旬節第一主日に菊地司教様司式による合同洗礼志願式が執り行われた。菊地司教様は洗礼志願式を共同体で執り行う意義について説かれ、「四旬節に信仰の根本に立ち返り、何を信じ、どうしてそれを信じているのか、信じているのであればどのように生きていくのかを教会共同体も洗礼志願者と共に一緒になって深めてもらいたい」と締めくくられた。

#### 菊地司教様の説教から

- \* 洗礼志願式を共同体で執り行う意義について、
- ① 洗礼を受けるということは個人的な内心の問題にとどまるものではなく、共同体において生きられるものであることを実感して頂くことにある。
- ② 教会共同体とは自身がミサにあずかる場所としての教会を意味しているのではなく、全世界に広がる一つのキリストの体としての共同体を指している。そして洗礼とは一つの教会に属するためのもではなく、それをはるかに超えた世界に広がる神の民の一員になることを意味している。

洗礼志願者は「復活祭に入信の秘跡、洗礼・堅信・聖体を受け、主キリストの弟子となりその体である教会共同体に加えられることを心から望みます」と述べて洗礼志願書に署名した。ミサ後に行われた記念撮影でカメラに向けられた洗礼志願者一人ひとりの澄み切った笑顔が印象的であった。

### ■ 四旬節黙想会 ---- 3月11日(土)~12日(日) ----

今年の四旬節黙想会は長岡教会のロレンゾ神父様(神言修道会)の指導で行われた。ロレンゾ神父様といえば、これまでも何度か英語ミサの司式のために新潟教会に来ておられるが、復活祭後は新潟教会協力司祭として着任されることが決まっている。

黙想会のテーマは「お互いに赦し合いなさい」。講話の中で神父様はいくつかの具体的な例を挙げながら「赦す」ことの重要性を指摘。「正しい人も日に7度倒れる」という詩編の一節を紹介しながら完璧主義を戒められた。また、「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら…」(マタイ5・23)といわれていることにも注意を促された。講話の後は両日ともゆるしの秘跡が授けられた。

## 講話のポイント

- \* “Charity begins at the home.”(愛は親族から始まる)という諺がある。互いに愛し合うとともに、赦し合わなければならない。
- \* もっとも身近な隣人とは自分自身。自分で自分を許さない完璧主義は悪魔からの誘惑。
- \* 自分を傷つけた相手をすぐに赦せないとしても、せめて「赦したい」と望み、神にその力を願い求めることが大切。

<聖書参照箇所>

- ・マタイ 18・21-35 ・エフェソ 4・32
- ・マタイ 5・23-24

## あゆみ

No.83 教会運営委員会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

指 導	主任司祭 ラウール神父
開催日時	2017年4月8日(土) 午前10時～11時
会 場	カトリックセンター研究室
講座内容	「聖週間の典礼」

私たちの信仰の中心である、主イエス・キリストの受難、死と復活を**祈念**する「聖週間」を前に、その典礼について学びます。

講座の翌日から始まる聖週間の典礼に意識的かつ積極的に参加することができるよう、この機会にぜひ講座にご参加ください。

カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部

〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656 TEL: 025-222-5024 FAX: 025-222-5054